

### Ⅲ 「郷土と日本、そして世界を知る力」を育成する

#### 1 郷土の魅力を知り、世界の多様性を理解

#### (1) 国際的視野を持つ人材の育成 << 施策 2 2 >> 高校教育課、義務教育課、特別支援教育課

##### 平成 29 年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 英語教員の英語力向上を図るとともに、「聞く・話す・読む・書く」の 4 つの技能を総合的に育成する授業改善を進め、グローバル化に対応した英語教育の充実を図ります。
- ◇ 小学校における英語教育の早期化・教科化に向けた効果的な指導体制の整備を進めます。

##### 平成 29 年度 主な取組・事業

取組・事業名	実績
世界に挑む 人材育成事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 留学促進チラシ配布(説明・報告会) 県内高校 1・2 年生全員</li> <li>○ 留学助成金           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期派遣 給付者数 30 人 留学 1 年程度の生徒に対し、最大 30 万円の助成金給付</li> <li>・ 短期派遣 給付者数 31 人(2 校) 留学 2 週間以上 1 年未満の学校単位の留学プログラムに対し、一人当たり 6 万円の助成金給付(高校生等奨学給付金受給者は 5 万円を上限として加算)</li> </ul> </li> <li>○ 高校生海外留学説明会 1 回(5 月) 留学に役立つ講演、留学に関する説明会・相談会 参加者数 178 人</li> <li>○ 高校生海外留学報告会 1 回(9 月) 留学体験報告、留学に関する説明会・相談会 参加者数 29 人</li> </ul>
ふくおか グローバルハイスクール 事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県内高校のスーパーグローバルハイスクール指定校 (現在 2 校：平成 27 年度から 5 年間)</li> <li>・ 県立鞍手高等学校 「筑豊から世界へ！グローバルシティズンシップを持った『たくま しき前進者』の育成」</li> <li>・ 県立京都高等学校 「国内外の農業問題に挑むグローバルリーダーの育成」</li> </ul>
グローバル化に対応した 英語教育の推進 < 重点事業 1 6 >	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外国語指導助手(ALT)の配置(平成 30 年 3 月現在、政令市を除く。)</li> <li>・ 小中学校対象 191 人 (教育事務所 16 人、義務教育課 1 人、市町村教育委員会 174 人)</li> <li>・ 高等学校対象 73 人 (高校教育課 1 人、県立高等学校 71 人、県立中等教育学校 1 人)</li> <li>○ 配置校以外への ALT の派遣</li> <li>・ 中学生 Fukuoka English Camp 14 人</li> <li>・ 特別支援学校 60 回、高等学校 60 回、高等学校英語合宿 14 人</li> <li>○ ALT 研修会 年 6 回</li> <li>○ ALT 指導力等向上研修 年 1 回(2 日間)</li> <li>○ 英語活動指導員を高等学校に 2 人配置</li> <li>・ 理数科目等を英語で教えるイマージョン教育<sup>注1)</sup>を実施</li> <li>・ イマージョン教育研究授業の実施 年間 4 回 参加者 152 人</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 英語教育推進リーダー研修（教員） 14人を計10日間、中央研修に派遣 (小学校7人、中学校4人、高等学校3人)</li> <li>○ 米国大学研修への派遣（教員） 2か月研修1人、3か月研修2人、6か月研修1人</li> <li>○ 福岡県英語教員指導力向上研修の実施 年6回 621人（小学校309人、中学校141人、高等学校171人） がモデル研修、メソッド研修、フィードバック研修に参加 県立高等学校参加者はTOEICを受験</li> <li>○ 外部検定試験（英検、TOEIC）に係る受験費用補助（新規採用英語教員等）</li> <li>○ 英語教育強化地域拠点事業（宮若市、那珂川町） 連絡協議会（1回）、最終報告会（各地域で実施）、強化地域間交流、 大学教授による指導助言、公開授業</li> </ul>
--	---

**指 標**

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値	達 成 状 況
高校生の海外留学の啓発	留学説明会の参加者数	178人 (H29年度)	200人 (H33年度)	○
	留学報告会の参加者数	29人※ (H29年度)	200人 (H33年度)	△
生徒の英語力	英検3級程度以上の資格又は相当する力を有する中学校生徒の割合	40.7% (H29年度)	50% (H33年度)	○
	英検準2級程度以上の資格又は相当する力を有する県立高等学校生徒の割合	39.9% (H29年度)	50% (H33年度)	○

高校生の留学説明会、留学報告会の参加者数

年 度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
説明会	102人	130人	143人	190人	213人	150人	178人
報告会	34人	105人	157人	177人	105人	112人	(29人)※

※悪天候に伴う参加者減

英検 3 級程度以上の資格又は相当する力を有する中学校生徒の割合

H 2 8		H 2 9	
全国	福岡	全国	福岡
36.1% (18.1%)	33.7% (14.3%)	40.7% (22.0%)	40.7% (19.9%)

英検準 2 級程度以上の資格又は相当する力を有する県立高等学校生徒の割合

H 2 8		H 2 9	
全国	福岡	全国	福岡
36.4% (13.0%)	39.4% (15.5%)	39.3% (15.0%)	39.9% (16.8%)

※ ( ) の数値は、資格を取得している生徒の割合

### 成 果 「聞く」「読む」「話す」「書く」力を育成する英語の授業改善が図られました。

- ・ チラシ・ポスターやHPを見て留学説明会・報告会に対する県内での認知度は年々高まっています。県立高等学校・中等教育学校（高等部）における留学者数については、平成 28 年度まで 20 人台で推移していましたが、平成 29 年度は 38 人に増加しています。
- ・ 英語活動指導員によるイメージング授業において、生徒の英語力及び学習意欲が高まりました。教員の関心も高く前年度に比べて研究授業参加者が 2.4 倍に増えました。
- ・ ふくおかグローバルハイスクールについて発表会を行い、その研究成果を還元しました。
- ・ 英検準 1 級程度以上を有する英語教員の割合が増えました。（高等学校：平成 28 年度 57.8%→平成 29 年度 68.9%）
- ・ 高等学校の必修科目英語コミュニケーション I の授業の半分以上英語を使って指導している英語教員の割合が増えました。（高等学校：平成 28 年度 39.3%→平成 29 年度 49.8%）
- ・ 小学生英語体験ひろばに参加した児童の実際の場面での英語を活用することへの関心・意欲の高まりがみられます（事前 69%→事後 85%）。
- ・ 中学生 Fukuoka English Camp に参加した 3 年生生徒の 87.8%が中学校卒業までの間に英語検定 3 級以上を取得しています。
- ・ 「CAN-DO リスト」<sup>注2</sup>形式の学習到達目標を設定している中学校の割合は 100%（政令市を除く。）、学習目標の達成状況を把握している中学校の割合は 94.7%（政令市を除く。）でした。
- ・ 英語教育強化地域において、最終報告会を実施し、3 年間取り組んできた小学校中学年での外国語活動や高学年での外国語科の実施を見据えた実践研究及び小・中・高等学校の円滑な接続についての研究成果を発表・普及できました。

### 課 題 生徒の 4 つの技能を総合的に育成するため、英語教員の指導力と英語力をさらに高める必要があります。

- ① 説明会・報告会の参加者の関心を高め、県立高校生徒の留学者数のさらなる増加につなげなければなりません。
- ② ふくおかグローバルハイスクール対象校に対し、運営指導委員会における適切な指導、助言及び評価を継続的に行う必要があります。
- ③ 授業の半分以上英語を使って指導している英語教員の割合は増加していますが、授業改善を一層充実させ、生徒の「聞く・話す・読む・書く」の 4 つの技能を総合的に育成する必要があります。また、英語教員の英検準 1 級程度以上の取得者数を増やす必要があります。
- ④ 英検 3 級程度以上を取得する中学生の割合を高める必要があります。

- ⑤ 「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標を公表している中学校の割合は67.0%（政令市を除く。）です。生徒自身が英語の到達目標を意識したり、家庭での支援が得られるなどの効果が期待できることから、今後、さらなる公表の推進を図る必要があります。

**対 応** 英語教員指導力向上研修の中で、英語指導スキル向上のための演習と外部検定試験（TOEIC）の受験を実施します。

- ① 説明会・報告会の内容を充実させ、高校生の海外留学への興味・関心を高めるとともに、短期留学に対する助成金の周知に努め、留学者数の増加へとつなげていきます。
- ② ふくおかグローバルハイスクールについて公開授業や運営指導委員会に出席し、実施状況や生徒の学習状況の確認を行い、適切な助言を行うことのできる体制を作ります。
- ③ 英語教員指導力向上研修の中で、英語関係企業と連携した英語指導スキル向上のための演習と外部検定試験（TOEIC）の受験を実施します。
- ④ 児童生徒のコミュニケーション能力育成事業の成果及びノウハウを市町村へ提供し、児童生徒が実際に英語を使用する機会が広がるよう促します。また、教員の英語力や指導力を向上させる研修を実施し、聞く力・読む力・話す力・書く力をバランスよく育成する教育活動の実践に努めます。
- ⑤ 英語教員指導力向上研修や校内研修での指導助言を通して、「CAN-DO リスト」の公表の意義等を周知し、公表を推進します。

**注釈**

注1) 英語イマージョン教育:英語以外の授業を英語で学ぶことで、より実践的な英語力の向上を目的としたもの。

注2) CAN-DO リスト:4 技能（「聞くこと」「読むこと」「話すこと」及び「書くこと」）別に設定した、学年、学期ごとの学習到達目標の一覧。